

3. 結果

3.1. 問Ⅰの検証

【表3】には、正誤グループの正答率と共有グループの共有率を示した。問Ⅰの検証では、正誤グループの正答率を使用する。正答率は、真のニュースを「正しいと思う」、偽のニュースを「正しくないと思う」というように正確に判断した学生の割合を表している。また、共有グループの共有率ではなく正誤グループの正答率に着目する理由は、共有グループの場合、事前の共有判断がその後の正誤判断に影響を及ぼすからである。

八つのニュースの正答率の平均は、先に正誤判断の質問に回答した正誤グループで69.5%であった(30.5%が正しいニュースと誤解していた)。特に、(1)(5)(7)(8)のニュースの正答率が7割以上と高く簡単に正誤判断できたニュースと言える。その中で、(1)(7)(8)のニュースが偽のニュースである。つまり、偽のニュースの方が正誤判断をしやすかったことが確認された。

誤情報を正しく判断できているか確認するために真のニュース、偽のニュースに分けて着目すると、真のニュースである四つのニュースの平均正答率は57.6%、偽のニュースである四つのニュースの平均正答率は81.4%であった(18.6%が誤解している)。つまり、約8割の回答者は誤情報を間違いであると正確に判断できていることが確認された。特に、反対派寄りの偽のニュースである(1)(7)に着目すると、(1)のニュースの正答率は87.6%、(7)のニュースの正答率は81.4%であった。つまり、8~9割の回答者は、フェイク・ニュースを間違いであると正確に判断できていることが確認された。

3.2. 問Ⅱの検証

次に、正答率と共有率の関係を分析するために、正誤グループの正答率と共有グループの共有率に着目する。ここで、正誤グループの正答率と共有グループの共有率に着目する理由は、3.1節と同様である。また、正誤グループの正答率と共有グループの共有率を比較が可能な理由は、2.2節のバランス・チェックから正誤グループと共有グループが統計的に類似した人たちであると判断できるからである。

先述の通り、正誤グループにおける八つのニュースの平均正答率は69.5%であったのに対して、先に情報共有質問に回答した共有グループの平均共有率は49.7%であった。次に、真のニュース、偽のニュースに分けて着目すると、真のニュースである四つのニュースの平均正答率は57.6%(42.4%が誤解している)であるのに対し、平均共有率は60.6%であった。偽のニュースである四つのニュースの平均正答率は81.4%であった(18.6%が誤解している)であるのに対し、平均共有率は38.9%であった。また、3.1節と同様に、反対派寄りの偽のニュースである(1)(7)のニュースに着目すると、(1)のニュースの正答率は87.6%(12.4%が誤解している)であるのに対し、共有率は31.1%であった。(7)のニュースの正答率は

81.4%（18.6%が誤解している）であるのに対し、共有率は 45.3%であった。したがって、誤情報であると正確に判断できている人の中に、その誤情報を周囲と共有しようと思う人が一定割合存在していることが分かった。

3.3. 問Ⅲの検証

【表 4】には、回答者全員の推定結果と賛成派・反対派グループに分けた推定結果を示した。正誤判断の係数の値は、先に正誤判断を行わせることが共有判断に与えた効果を、定数項は先に正誤判断を行わせることに影響されない値を示している。また、()内は標準誤差を示している。正誤グループのときに 1、共有グループのときに 0 を取る変数を説明変数とし、被説明変数である共有ダミーに対して回帰分析を行っている。ここで、共有ダミーは、「共有する」と回答した場合に 1、「共有しない」と回答した場合に 0 を取る変数である。以下では、係数が統計的に有意な影響かと係数の効果について確認する。また、3.1、3.2 節と同様に、(1)(7)のニュースに着目する。

3.3.1. 全体の検証

【表 4】の全体の推定結果から、正誤判断が共有ダミーに対して負の効果を持っていることが示された。また、(1)～(7)のニュースでは、その効果が有意水準 5%以下で統計的に有意であった。つまり、事前に正誤確認させることが全体的にニュースを共有する意思を引き下げたということである。中でも、(2)のニュースの効果が最も大きく、共有グループと比較して 33%ポイント程度共有率が下がった。次いで、(4)のニュースの効果が大きく 24%ポイント程度共有率が下がった。また、(1)(7)のニュースに着目すると、正誤グループで、(1)のニュースの共有率は 16%程度まで下がり、(7)のニュースの共有率は 31%程度まで下がった。それに対して、(1)のニュースの誤認者の割合は 12.4%、(7)のニュースの割合は 18.4%と誤認者の割合と共有率が近くなっていた。予め正確さを意識させたことで、不正確なものを他者と共有してはいけないという考えが強まったと考えられる。一方、(2)(6)のような真のニュースの共有を 1%水準で統計的に有意に抑制する可能性があることも分かった。

3.3.2. ワクチン賛成派・反対派の検証

賛成派・反対派グループ別の推定結果は、全体と比較すると、統計的に有意な結果が観察されにくくなったが、これは標本数が少ないことが影響していると考えられる。(3)以外のニュースについては、反対派グループの方が負の係数が大きく、全体の推定結果により影響を与えていると考えられる。つまり、社会のワクチン接種を妨害する情報を共有しやすいと考えられるワクチン反対派で、事前に正誤判断をすることによって不正確なものを他者と

共有してはいけないという考えがより強くなっていると解釈できる。特に、反対派寄りの偽のニュースである(1)のニュースに着目すると、賛成派グループは10%ポイント程度共有率が下がっていたが、反対派グループは24%ポイント程度共有率が下がっており、下落の程度は反対派グループの方が大きかった。つまり、反対派グループにとって、都合のよく、情報を共有することで社会のワクチン接種を妨害する可能性のある(1)のようなニュースであっても、予め反対派グループに、正誤判断をさせることによって共有を大きく抑制させられることがわかった。これは、本研究の目的に沿った結果といえる。